



2016 9/13 [火] - 12/4 [日]

日本の自然を世界に開いた シーボルト

Philipp Franz Balthasar von Siebold as a pioneer naturalist of Japan

国立科学博物館 (東京・上野公園) 日本館1階企画展示室

開館時間 / 午前9時～午後5時
(金曜日及び土曜日は午後8時まで) ※入館は各閉館時刻の30分前まで

休館日 / 毎週月曜日
(月曜日が祝休日の場合は翌火曜日) ※ただし9月26日(月)は開館

入館料 / 一般・大学生620円(団体310円)
高校生以下および65歳以上無料

主催 / 国立科学博物館
後援 / 朝日新聞社

学術協力 / 東京大学総合研究博物館
首都大学東京 牧野標本館
ナチュラリス生物多様性センター(オランダ)
ルール大学ボーフム 東アジア学部(ドイツ)
ブランデンシュタイン・ツェッペリン家アーカイブ(ドイツ)

日本の自然を世界に開いた シーボルト

江戸時代に来日したシーボルトは、滞在中に多数の標本を収集し、帰国後多くの学者に研究を委ねました。植物学者でもあったシーボルト自身も研究に勤めます。その結果、殆ど未知だった日本の自然の様相が明らかになり、当時のヨーロッパの人々の自然の理解に大きな貢献をしました。

シーボルトの 生い立ちと時代背景

1796年にドイツのヴェルツブルクで生まれたシーボルトは、1823年にオランダ商館の医師として来日しました。鎖国のため外国からは未知の国に等しい日本の自然を世界に広く紹介すべく、ぼう大な資料を収集し、自らも研究しました。シーボルトの生涯とその時代背景などを紹介します。



▲右下：シーボルトが日本渡航の際に乗船した「ドロー・ヘズステルス号」(三姉妹号)

シーボルトの 植物コレクション

植物への関心が強かったシーボルトは、1万点以上のおし葉標本を収集し、川原慶賀による植物画などを精力的に集めました。収集には伊藤圭介などの学者や門弟も協力します。収集した標本の大半はオランダのライデン、一部がドイツのミュンヘンなどに保管されています。



▲右上：シーボルトが採集したシロダモのおし葉標本(東京大学総合研究博物館所蔵)

植物学者としての シーボルト

シーボルトは単にコレクターとしてだけでなく、研究者として日本植物の分類にも貢献します。研究を通してシラネアオイやキブシなどの固有種の存在を明らかにしました。ドイツの植物学者ツッカーリーニと共同で研究を行い、大著「フロラ・ヤポニカ」などの著作を著します。



▲右下：シーボルトとツッカーリーニが明らかにした日本の固有植物シラネアオイのおし葉標本(首都大学東京 牧野標本館所蔵)

日本の植物でヨーロッパの 庭を変えたシーボルト

ヨーロッパの戸外でも育つユリやアジサイ、ツバキ、ギボウシなどを導入して、種数も少なく貧弱だったヨーロッパの園芸植物の多様化を計画しました。園芸を振興するための協会を組織し、日本から持ち帰った植物をヨーロッパに広めるために、カタログによる販売を行いました。



▲中下：ヨーロッパに園芸植物として導入されたツバキ。Siebold and Zuccarini "Flora Japonica" (1835-70)より
▲右上：ワカメ。Suringar, W.F.R. "Algae Japonicae Musei Balaric Lugduno-Batavi" (1870)より

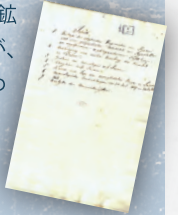
海藻もコレクション したシーボルト

シーボルトは海藻標本も収集しました。ライデンの王立植物標本館に保管された標本は、40年後にオランダの植物学者スリンハーが研究し、ワカメ属が新設されるなど日本の海藻の解明がすすめられました。



シーボルトと 幻の日本鉱物誌

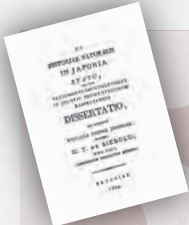
シーボルトの助手として長崎に来たビュルガーは、鉱物標本の収集、地質調査、温泉水の分析、気象観測などを担当しました。シーボルトの依頼で、「日本鉱物誌」の原稿を書きましたが、残念ながら出版されずに終わってしまいました。



▲右下：「幻の日本鉱物誌」の目次(シーボルト筆)(ルーレ大学ポーム 東アジア学部所蔵)

動物学における シーボルトの素養

植物学者として知られるシーボルトですが、彼は来日早々動物学に関する論文を執筆し、その後も網羅的な動物標本収集を行いました。同じ種でもたくさんの標本を収集し、また生きた動物までも観察した彼のスタイルに、動物学者としての素養を見ることができます。



▲左上：シーボルトの論文の扉ページ(De Historiae Naturalis in Japonia Statu (1824))

シーボルト動物 コレクションの行方

シーボルトの動物コレクションは主にライデン自然史博物館の研究者により調査され、ファウナ・ヤポニカ全5編としてまとめられました。多くは種や亜種の命名に使用された「タイプ標本」として、現在も研究に利用されています。



▲右上：オニヤンマ

未完に終わった ファウナ・ヤポニカ第六編

コレクションのうち、昆虫類や多くの海生無脊椎動物に関しても研究者によって調査されました。ライデン自然史博物館にはファウナ・ヤポニカのために用意されたと思われる図版と草稿が残されています。未完の第6編が予定されていたのかもしれませんが。



▲左下：幻の棘皮動物図版(ヒトデ類)

Philipp Franz Balthasar von Siebold as a pioneer naturalist of Japan

EVENT INFORMATION

10月23日(日) ※参加無料、ただし入館料が必要
記念講演会 13:00~16:20

定員
100名

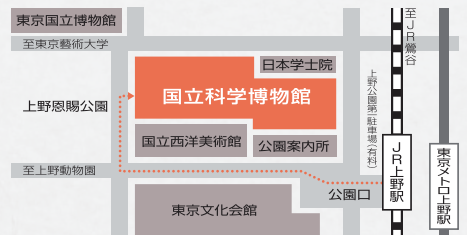
会場：国立科学博物館日本館2階講堂
講師：C. ブランデンシュタイン=ツェッペリン(ドイツ・シーボルト家御子孫)、G. タイセ、M. ファン・オイエン(ナチュラリス生物多様性センター)、田賀井 篤平、大場 秀章、佐々木 猛智、三河内 彰子(東京大学総合研究博物館)、岩科 司、秋山 忍、森 健人(国立科学博物館)

※申込方法等詳細はHPをご覧ください。

交通ガイド

- JR 「上野駅」公園口から徒歩5分
- 東京メトロ 銀座線・日比谷線 「上野駅」から徒歩10分
- 京成電鉄 「京成上野駅」から徒歩10分

※駐車場はありませんので、お車でのお来館はご遠慮ください。



国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20
TEL:ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.kahaku.go.jp/>